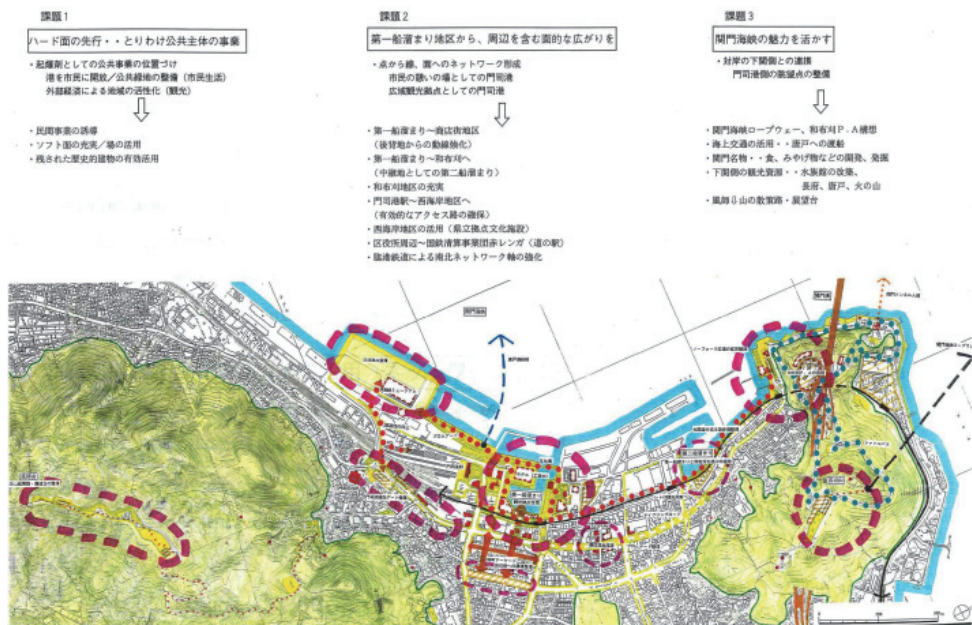


門司港地区はレトロ事業によるウォーターフロント、広場・緑地等の整備、旧税関等の歴史的建物の保存修復などの結果、そのイメージを一新した。しかし一方で、公共空間の整備に偏り、賑わいも第一船溜まり周辺に限定されるなど、今後、点から線、面への広がりの必要性、民間活力の導入などが求められてきた。本調査は今後のレトロ地区の地域活性化に向けての総合調整のための基本構想（第2期整備構想）としての意味を有している。全体のマスタープランについてのハードな検討はアプル、ソフト戦略は北山創造研究所（代表・北山孝雄）、による共同作業で進めてきた。

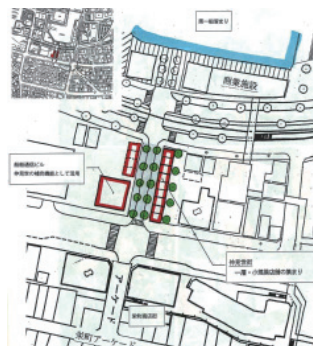
ここでは観光に特化した街づくりではなく、生活街づくり＝「門司に住みたい」と観光街づくり＝「門司に訪れたい」の共存するく生活テーマパークを目指し、地区内各ゾーンに相應しい計画づくりを提案した。新浜地区9号上屋跡地活用、栄町商店街との連携を深めるための仲見世街の整備等の提案は、後に実現する。



まちづくりの基本的考え方



整備構想ダイヤグラム



門司仲見世ストリートの提案（例）



新浜9号上屋跡地活用（提案）